

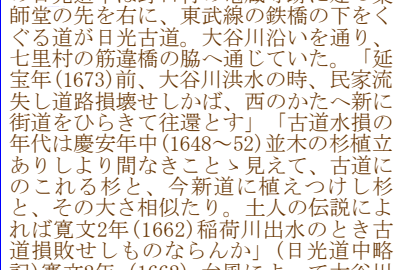
古道分岐の石仏群

②6 古道分岐の石仏群  
道が交わるところに、勝善神をはじめ、自然石の馬頭観世音、馬頭尊など20数基の石碑がある。



線路の下が古道入口

②7 日光古道  
「日光街道、むかしは此道より七里村筋違橋のわきへ通じて、今の街道の東にあり」(日光道中略記)江戸初期(1662)の日光道中は野口村の竜蔵寺跡に建つ薬師堂の先を右に、東武線の鉄橋の下をくぐる道が日光古道。大谷川沿いを通り、七里村の筋違橋の脇へ通じていた。「延宝年(1673)前、大谷川洪水の時、民家流失し道路損壊せしかば、西のかたへ新に街道をひらきて往還とす」「古道水損の年代は慶安年中(1648~52)並木の杉植立ありしより間なきこと、見えて、古道にのこれる杉と、今新道に植えつけし杉と、その大さ相似たり。土人の伝説によれば寛文2年(1662)稲荷川出水のとき古道損壊せしものならんか」(日光道中略記)寛文2年(1662)台風によって大谷川が氾濫し、日光道中も崩壊した。その後、回り道として現在の新道を開いた。「日光御参詣の時は、古道を以て御供方の廻り道とす」



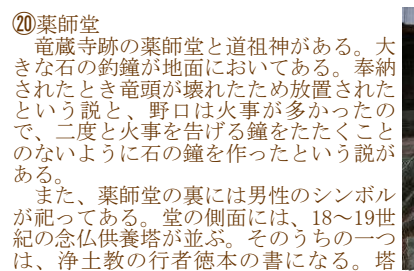
今市御蔵の基礎石

⑥ 今市御蔵の門柱の基礎石  
赤堀川に架かる橋に使われている。



報徳役所跡

⑤ 報徳役所跡  
小田原出身の二宮尊徳は、日光社領の荒地開発を命じられ、今市の地に報徳仕法を施し、ここで亡くなった。大谷石でできた倉庫が復元されている。二宮尊徳の年取った像、昭和24年(1949)の震災記念碑もある。その奥の木造建築物は報徳今市振興会館。中には二宮尊徳の解説や記念品が展示されている。



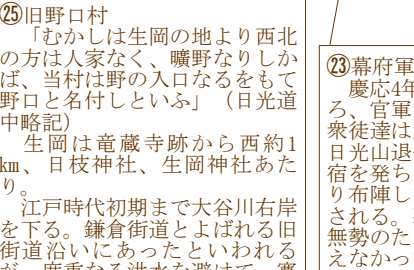
薬師堂 石の釣鐘

②0 薬師堂  
竜蔵寺跡の薬師堂と道祖神がある。大きな石の釣鐘が地面においてある。奉納されたとき竜頭が壊れたため放置されたという説と、野口は火事が多かったので、二度と火事を告げる鐘をたたくことのないように石の鐘を作ったという説がある。  
また、薬師堂の裏には男性のシンボルが祀ってある。堂の側面には、18~19世紀の念仏供養塔が並ぶ。そのうちの一つは、浄土教の行者徳本の書になる。塔は、このほか御幸町竜蔵寺境内にもある。堂内には、寛文6年(1666)の作仏聖王空の作になる閻魔王座像が最近確認された。薬師堂は、日光をめざす宗教者が立ち寄る村堂でもあった。



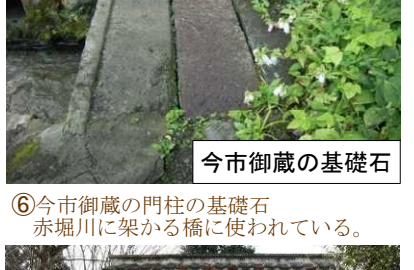
薬師堂

②5 旧野口村  
「むかしは生岡の地より西北の方は人家なく、曠野なりしかば、当村は野の入口なるをも野口と名付しといふ」(日光道中略記)  
生岡は竜蔵寺跡から西約1km、日枝神社、生岡神社あたり。  
江戸時代初期まで大谷川右岸を下る。鎌倉街道とよばれる旧街道沿いにあったといわれるが、度重なる洪水を避けて、寛文年間(1661~1672)日光街道が整備され街道沿いに移った。



報徳役所書庫

③ 今市御蔵跡  
近隣各地の天領から納められた年貢米が収納されていた。敷地には4棟の蔵があり、1棟は2つに分けられ1番から8番まであった。日光に勤仕する僧侶や日光奉行所の役人などはいずれもここで扶持を支給され、扶持米は今市宿内の穀問屋に払い下げ、貨幣で支給された。宿は米問屋が多く発達した。  
東照宮用の非常米の倉庫とも、年貢米の米倉で穀問屋に払い下げ役人の扶持を支給していたともいわれる。現在残っているのは、門柱の基礎に使われた石だけで、赤堀川に架かる橋に使われている。



報徳役所跡の二宮尊徳



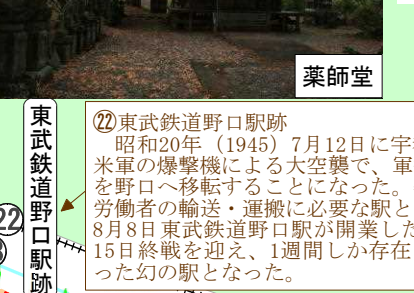
瀧尾神社

④ 瀧尾(たきのお)神社  
「宿の鎮守なり。…祭神は田心姫命。当社は日光山滝尾の神と同跡なり。…往古此神、此地に神遊びありしゆゑ当社を勧請せしと云。其年代を伝えず」(日光道中略記)天応2年(783)勝道上人が日光二荒山に二荒山大神を祀ると同時に、この地、琵琶ヶ窪にも祀った。「筭(こうがい)の森」(日光道中略記)森のうしろ、今の浄水場あたりに琵琶窪があった。「当社の背後に琵琶窪といふ池あり。其形ち琵琶に似たり。神護景雲元年(767)勝道上人はじめて日光登山のとき、まづ此琵琶窪に休らひたるに、滝尾権現出現ありて奇端を示さる。時に天より竿降りして竿の森と名づけしともいひ伝ふ」(日光道中略記)今市の鎮守。明神鳥居は、今市指定文化財。今市宿の西の入口にあたりかかつてここに木戸があった。今市宿の街道の真ん中に水路がありここに市神様が祀られていたが、明治18年水路が埋め立てられるとき、市神様は滝尾神社の鳥居をくぐった右に移された。



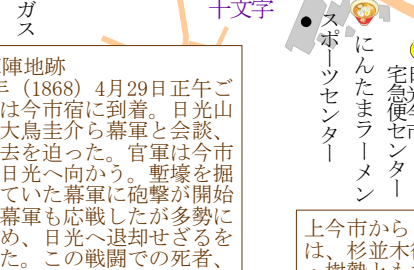
瀬川の七本杉伐採痕

②0 瀬川の七本杉伐採痕  
七本の杉の根幹が密着し一株になった伐採痕がある。明治35年(1902)の大暴風雨、大正3年(1914)風損、残りの五本も老朽化し昭和43年(1968)伐倒されてしまった。



東武鉄道野口駅跡

②2 東武鉄道野口駅跡  
昭和20年(1945)7月12日に宇都宮が米軍の爆撃機による大空襲で、軍需工場を野口へ移転することになった。物資や労働者の輸送・運搬に必要な駅として、8月8日東武鉄道野口駅が開業した。8月15日終戦を迎え、1週間しか存在しなかった幻の駅となった。



瀬川の大日堂

⑩ 磐裂の霊水  
月蔵寺からこの道を南へ922m 12分行くと和泉村の氏神磐裂神社と和泉村の地名の由来となった磐裂の霊水がある。



瀬川大日堂



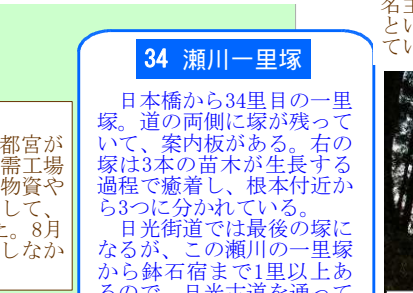
瀧尾神社

⑧ 古峰原街道  
琴平山の裾野を通り、古峰原へ向かっていた。



名主の家復元

名主の家復元  
上今市駅から瀬川集落まで約1kmにわたり、杉並木公園が整備されている。この公園は杉並木の保護を主な目的としたもので、大小14基の水車が回り、瀬川集落の手前に旧小倉村(現、日光市小倉)名主江連家住宅、報徳仕法農家(報徳庵というそば屋)の二棟が移築・復元されている。



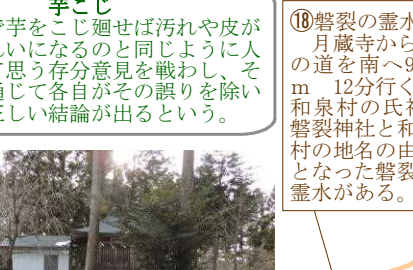
瀬川の一里塚

③4 瀬川一里塚  
日本橋から34里目の一里塚。道の両側に塚が残っていて、案内板がある。右の塚は3本の苗木が生長する過程で癒着し、根本付近から3つに分かれている。日光街道では最後の塚になるが、この瀬川の一里塚から鉢石宿まで1里以上あるので、日光古道を通って七里付近に一里塚があったと思われる。

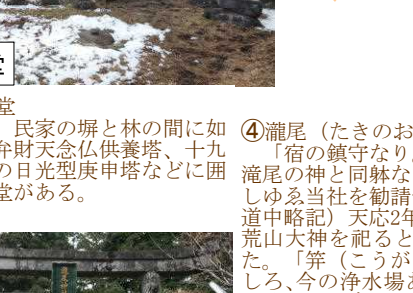


瀬川の大日堂

⑩ 磐裂の霊水  
月蔵寺からこの道を南へ922m 12分行くと和泉村の氏神磐裂神社と和泉村の地名の由来となった磐裂の霊水がある。



瀬川の大日堂



瀧尾神社

⑧ 古峰原街道  
琴平山の裾野を通り、古峰原へ向かっていた。



名主の家復元

名主の家復元  
上今市駅から瀬川集落まで約1kmにわたり、杉並木公園が整備されている。この公園は杉並木の保護を主な目的としたもので、大小14基の水車が回り、瀬川集落の手前に旧小倉村(現、日光市小倉)名主江連家住宅、報徳仕法農家(報徳庵というそば屋)の二棟が移築・復元されている。



瀬川の一里塚

③4 瀬川一里塚  
日本橋から34里目の一里塚。道の両側に塚が残っていて、案内板がある。右の塚は3本の苗木が生長する過程で癒着し、根本付近から3つに分かれている。日光街道では最後の塚になるが、この瀬川の一里塚から鉢石宿まで1里以上あるので、日光古道を通って七里付近に一里塚があったと思われる。

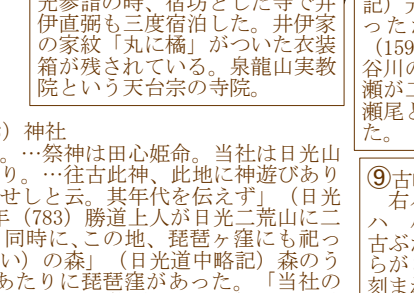


瀬川の大日堂

⑩ 磐裂の霊水  
月蔵寺からこの道を南へ922m 12分行くと和泉村の氏神磐裂神社と和泉村の地名の由来となった磐裂の霊水がある。

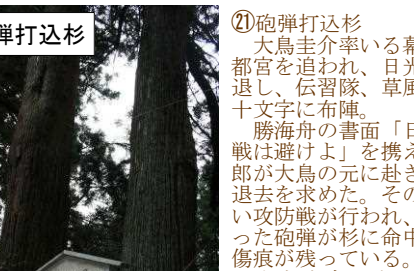


瀬川の大日堂



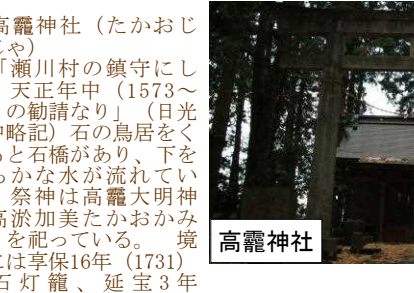
瀧尾神社

⑧ 古峰原街道  
琴平山の裾野を通り、古峰原へ向かっていた。



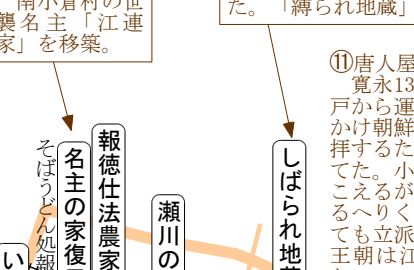
砲弾打込杉

② 砲弾打込杉  
大島圭介率いる幕府軍は宇都宮を追われ、日光道中を後退し、伝習隊、草風隊が野口十文字に布陣。勝海舟の書面「日光山での戦は避けよ」を携えた松平太郎が大島の元へ赴き、日光山退去を求めた。その後、激しい攻防戦が行われ、官軍の放った砲弾が杉に命中し、その傷痕が残っている。  
大島圭介は申し入れを受け、日光退却を全軍に下した。この日光山からの脱出が有名な「六法沢越」である。



高麗神社

② 高麗神社(たかおじんじや)  
「瀬川村の鎮守にして、天正年中(1573~92)の勸請なり」(日光道中略記)石の鳥居をくぐる石橋があり、下を清らかな水が流れている。祭神は高麗大明神(高添加美たかおかみ神)を祀っている。境内には享保16年(1731)の石灯籠、延宝3年(1675)の「愛宕山」と刻まれた石碑、嘉永6年(1853)「男体山」と刻まれた石碑がある。

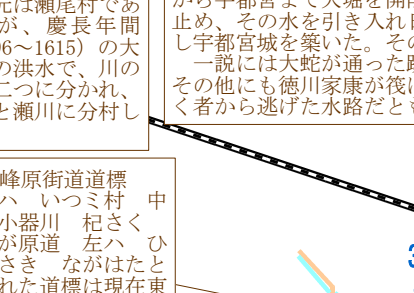


瀬川の大日堂

⑩ 磐裂の霊水  
月蔵寺からこの道を南へ922m 12分行くと和泉村の氏神磐裂神社と和泉村の地名の由来となった磐裂の霊水がある。



瀬川の大日堂



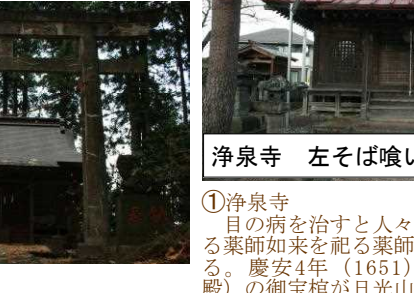
瀧尾神社

⑧ 古峰原街道  
琴平山の裾野を通り、古峰原へ向かっていた。



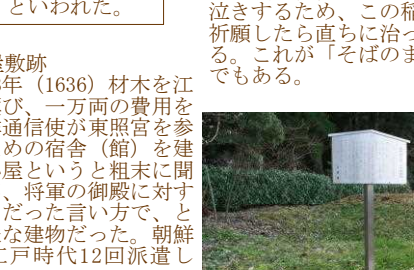
浄泉寺 左そば喰い稲荷

① 浄泉寺  
目の病を治すと人々から信仰されている薬師如来を祀る薬師堂や稲荷神社がある。慶安4年(1651)、家光(大猷院殿)の御宝篋が日光山に向かうとき、ここで小休止したといわれる。



高麗神社

② 沢蔵司稲荷神社(そば喰い稲荷)  
沢蔵司稲荷仕法跡に、文久2年(1862)二宮尊徳の子孫太郎が寄進した稲荷神社で、沢蔵司(たくぞうす)稲荷仕法とよばれる、利子を活用した稲荷維持のための永久計画があったという。そば喰い稲荷は弥太郎の次女、たかが夜泣きするため、この稲荷にそばを献上し祈願したら直ちに治ったという伝えがある。これが「そばのまち今市」のルーツでもある。



瀬川の大日堂

⑩ 磐裂の霊水  
月蔵寺からこの道を南へ922m 12分行くと和泉村の氏神磐裂神社と和泉村の地名の由来となった磐裂の霊水がある。

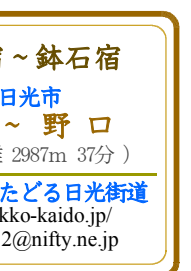


瀬川の大日堂



瀧尾神社

⑧ 古峰原街道  
琴平山の裾野を通り、古峰原へ向かっていた。



浄泉寺 左そば喰い稲荷

① 浄泉寺  
目の病を治すと人々から信仰されている薬師如来を祀る薬師堂や稲荷神社がある。慶安4年(1651)、家光(大猷院殿)の御宝篋が日光山に向かうとき、ここで小休止したといわれる。



高麗神社

② 沢蔵司稲荷神社(そば喰い稲荷)  
沢蔵司稲荷仕法跡に、文久2年(1862)二宮尊徳の子孫太郎が寄進した稲荷神社で、沢蔵司(たくぞうす)稲荷仕法とよばれる、利子を活用した稲荷維持のための永久計画があったという。そば喰い稲荷は弥太郎の次女、たかが夜泣きするため、この稲荷にそばを献上し祈願したら直ちに治ったという伝えがある。これが「そばのまち今市」のルーツでもある。

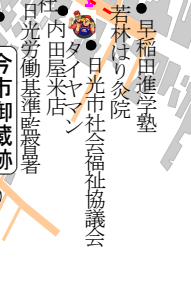


瀬川の大日堂

⑩ 磐裂の霊水  
月蔵寺からこの道を南へ922m 12分行くと和泉村の氏神磐裂神社と和泉村の地名の由来となった磐裂の霊水がある。



瀬川の大日堂



瀧尾神社

⑧ 古峰原街道  
琴平山の裾野を通り、古峰原へ向かっていた。